

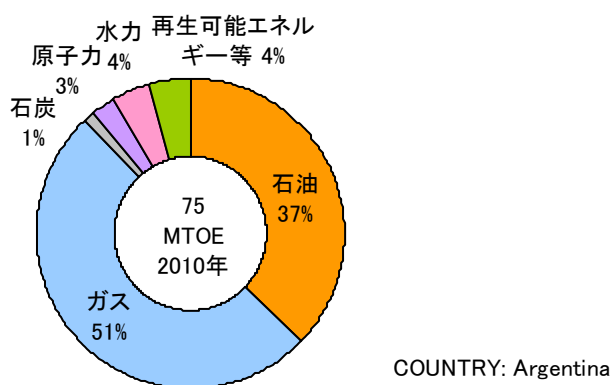
3-7 アルゼンチン

1. サマリー

1. エネルギー事情

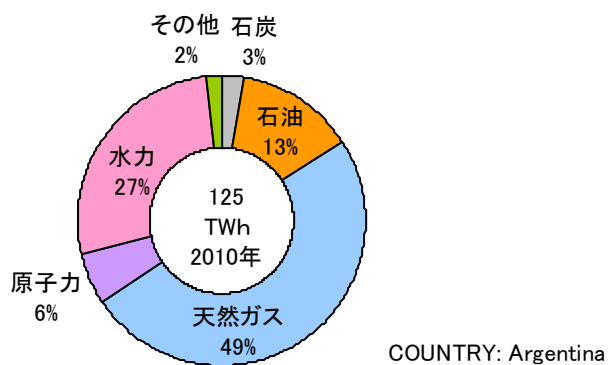
- (1) 一次エネルギー供給量 (2010年) : 75 百万 TOE (日本の 16%)
- (2) 一人当たりの一次エネルギー供給量 (2010年) : 1.85TOE/人 (日本の 51%)
- (3) エネルギー自給率 (2010年) : 106%
- (4) エネルギー起源 CO₂ 排出量 (2010年) : 170.2 百万 CO₂ 換算 ton (日本の 14.9%)
- (5) 一人当たりエネルギー起源 CO₂ 排出量 (2010年) : 4.21 CO₂ 換算 ton/人 (日本の 46.9%)
- (6) エネルギー別可採年数 : 原油 10.6 年、天然ガス 8.6 年、石炭 : -

一次エネルギー供給構成 (2010年)



(出所) IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries 2012 Edition

電力供給構成 (2010年)



(出所) IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries 2012 Edition

2. エネルギー政策のポイント

(1) 資源・エネルギー政策担当機関

- アルゼンチンで資源・エネルギーを管轄するのは、連邦計画公共工事サービス省であり、同省はエネルギー、鉱業以外に公共工事、通信、輸送部門も管轄している。同省の中でエネルギーを担当しているのはエネルギー局、鉱業を担当しているのは鉱業局である。エネルギー局の中には炭化水素を管轄する燃料部と電力を管轄する電力部がある。2012年10月時点での大臣は Julio Miguel De Vido 氏、エネルギー局長は Daniel Omar Cámeron 氏、鉱業局長は Ing. Jorge Mayoral 氏である。
- 監督組織については、石油は燃料部、電力は ENRE、ガスは ENARGAS となっている。原子力は原子力委員会 CNEA の管轄下にある。

(2) 基本政策

- 2001年12月の対外債務不履行により経済危機に陥り、エネルギーに関しては、2002年にエネルギー法を制定し、現在も効力を有している。これは通貨切り下げによる末端価格への波及を最小限化するために、ガスと電力の料金を凍結し、また、国内のエネルギー価格上昇を抑え政府の歳入を増やすために、原油、石油製品、ガスの輸出に大きな税を課しているものである。
- 価格抑制政策の結果、民間エネルギー会社の投資意欲が減退し、アルゼンチンの原油、天然ガス生産量は減少を続けている。このため、アルゼンチンのエネルギー基本政策は国内の原油、天然ガス生産を増加させて、石油製品や LNG 輸入増加による外貨流出を減らし、純輸出国の地位を保つことにある。このため、かつてアルゼンチンは、エネルギー産業の民営化、外資導入に積極的に取り組んできたが、2012年には民営化された旧国営石油会社 YPF を再国有化するなど、政府はエネルギー部門への介入を強化している。

(3) 最近の動向

- 2012年7月、アルゼンチンとボリビアの両大統領の会談を受けて、ボリビア国営石油会社 YPF とアルゼンチン YPF は、ボリビアからの天然ガス供給量を 2012年末から 1,630 万 m³/d に増加し、2013年には 1,920 万 m³/d に増加することに合意した。
- 2012年9月、Chevron と YPF はアルゼンチン全体の既存の成熟油田開発と Neuquen 州 Vaca Muerta 地域のシェール共同開発の可能性に関する MOU を締結した。ただし、アルゼンチンへの投資には、価格統制、法的不安定性、会社の接収、高いインフレといった好ましくないビジネス環境にあることに加え、Repsol が Chevron に対して法的措置をとることが懸念されている。

3. 日本とエネルギー分野における関係

- 2000 年以降、政府間、政府系機関、民間ともに、エネルギー分野での関係は殆どない。

2. 主要エネルギー指標

(2010 年)

(1)	一次エネルギー供給量	75 百万 TOE
(2)	一人当たりの一次エネルギー供給	1.85 TOE/人
(3)	GDP 当りの一次エネルギー供給	0.29 TOE/千\$
(4)	エネルギー自給率	106 %
(5)	エネルギー起源 CO ₂ 排出量	170.2 百万 CO ₂ 換算 ton
(6)	一人当たりエネルギー起源 CO ₂ 排出量	4.21 CO ₂ 換算 ton/人
(7)	エネルギー源別構成率	
	石炭	1 %
	石油	37 %
	天然ガス	51 %
	原子力	3 %
	水力	4 %
	再生可能エネルギー等	4 %
(8)	エネルギーの輸入依存度	-6 %
(9)	石油の輸入依存度	-26 %
(10)	輸入原油の中東依存度	0 %
(11)	原油輸入先	
	第 1 位	(2010 年は原油の輸入はなし)
	第 2 位	
	第 3 位	

(出所) (1)～(4)および(7)～(9)は IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries 2012 Edition,
 (5)～(6)は IEA, CO₂ Emissions from Fuel Combustion 2012、
 (10)～(11)はアルゼンチン・エネルギー局統計